

建築主：株式会社 人と古民家

設計：株式会社 人と古民家

施工：三浦建設 株式会社

所在地：夷隅郡大多喜町下大多喜1530 ～統合的な地域活性化としての古民家再生ビジネスモデル～

一棟貸し古民家の宿「まるがやつ」



雄大な大屋根が特徴的な築200年の古民家「まるがやつ」 外壁はほぼ原型をとどめ建具を木製サッシに変更

近年、少子高齢化や人口・世帯数の減少を主因とする空き家率の増大が、全国的に大きな問題になりつつある。特に古民家と呼ばれる地方の古い伝統木造住宅は、その維持管理の経済的、技術的困難さやライフスタイルとのギャップ故に長年空き家として放置されたり、その末に解体されたりする事例に事欠かない。それに対し、本建築文化賞にその保存事例の応募数が継続的に増えてきており、首都圏にある千葉県における多様な建築文化の一角を占めるようになってきていることは大変喜ばしい。

さて、一棟貸し古民家の宿「まるがやつ」と名付けられた本事例の取り組みは、そのような単なる古民家再生の 카테고리を超越し、夷隅郡大多喜町の歴史的かつ地域的な生活文化の再興と活性化を目指している、と言う点から見てユニークである。しかも、それを自らのライフワークとも言うべき意図と目標として掲げた建築家集団が、関連する多様で幅広いステークホルダーのネットワ

ーク化に短期間で成功した。そして、その総力を結集し、持続的に圏外からの顧客を受け入れられるようなプログラムとビジネスモデルを構築して実現できたことは、職能の未来につながるあり方として特筆すべきである。

周囲の屋敷林や農地とともに再生された懐かしく美しい古民家と蔵を寝食の拠点とし、この立地特性のポテンシャル故に可能となった農や食等のスローな文化の体験をブレンドしたメニューの数々。それは、通常の建築再生行為が果たしうる境界を超え、大変魅力的である。世代や立場を超えた、今後のさらなる展開に期待したい。

(岩村和夫)



神棚の間 神棚は前のオーナーから引き継いだ和室は構造や建具はそのまま再利用とした



神棚の間 神棚の間から続く和室の先は日本庭園が望める

(撮影/ ㈱スペースフォト 水埜 公喜)